

令和5年度 第1回川崎市社会教育委員会会議多摩市民館専門部会摘録

- ・日 時 令和5年7月24日（月）10時～12時
- ・場 所 多摩市民館 第6会議室
- ・出席委員 羽深委員、小澤委員、米山委員、山本委員、安陪委員、三品委員、高梨委員、小園委員
- ・欠席委員 なし
- ・事務局 柏原館長、星野係長、篠原係長
- ・傍聴者 2名

1 開 会（星野係長）

2 館長あいさつ

3 委嘱状交付

新たに委員に就任した羽深委員、山本委員、安陪委員へ柏原館長から委嘱状を交付

4 専門部会委員自己紹介

5 多摩市民館専門部会について

資料1に基づき柏原館長から説明

6 部会長選出

吉田部会長の解嘱に伴い高梨副部会長を部会長に選出。副部会長には米山委員を選出

7 令和4年度第4回会議録について

資料3に基づき星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

6 議 題

(1) 令和5年度施設管理等について（報告）

資料4に基づき星野係長から説明。特に質疑はなし。

(2) 令和5年度多摩市民館社会教育振興事業について（報告）

資料5に基づき篠原係長から説明。特に質疑はなし。

(三品委員)

事業には新規のものと継続のものがあると思うが、継続事業については、年々良くしていかなくてはならない。事業の評価はどのように行っているか。

(事務局：篠原係長)

毎年全市で行っている事業評価の中で包括的な評価を行っている。個々の事業については評価を明示する形で行っているわけではないが、継続している事業の多くは毎年その時の課題に応じてテーマを設

定しており、全く同じことをしているわけではない。識字学習活動や障害者の社会参加学習活動も、内容は同じであるが、ボランティアとのミーティングを頻繁に行い改善に努めている。

(三品委員)

参加者のアンケート結果を反映するなど、内容を向上していく観点があるとよい。

(篠原係長)

アンケートの活用など、引き続き各職員とも、様々な御意見をいただきながら事業をよりよいものとしていきたい。

(高梨部会長)

誰が評価をするのかも大切である。実際に活動された方との振り返りなども評価の一つと思うので上手く活用してほしい。

(安陪委員)

多くの講座があるが、全体的に定員に対する応募の状況はどうなっているか。

(篠原係長)

昨年度はどの講座も概ね定員に達している。かなり高い倍率の抽選となったり、先着順で定員に達した後にも申し込みをいただいた講座もあり、適宜講師の理解を得ながら定員を増やしたりもした。参加者が全然集まらないような講座はなかった。

(山本委員)

沢山の講座が行われていることが分かったが、PRはどのように行っているのか。

(篠原係長)

インターネットを通じた告知は主に区ホームページや市のイベントアプリで行っている。主な広報媒体としては、市政だよりや市民館だより、チラシを活用している。また、市民館に来館されている方は学習意欲が高いので、別の講座の参加された方に対して広報を行うなどしている。市民館だよりや市民館で配布しているチラシを見て参加される方も多いことから、来館者に向けた広報は効果的と考えている。また、最近では小田急線の駅にも市民館だよりを置かせていただくなど、様々な工夫を行っているところである。

(高梨部会長)

資料5のシニアの社会参加支援事業と、高齢者セミナーの違いは何か。

(篠原係長)

シニアの社会参加促進事業は50歳以上の方、高齢者セミナーは主に65歳以上の方を対象としている。シニアの社会参加促進事業は毎年生田地区を対象に、生田出張所を主な会場にして実施している。それに加えて今年度はこの専門部会での審議を経て高齢者セミナーを生田地区で実施する準備を進めている。

### (3) 今季のテーマについて

資料6～資料9に基づき篠原係長から説明

(三品委員)

図書館はもう指定管理に移行しているのか。

(柏原館長)

図書館はまだである。図書館は指定管理に移行する館と移行しない館があり、多摩図書館は直営のままとなる。市民館は、多摩市民館が令和8年度に移行し、他の館はスケジュールが異なる。

(篠原係長)

資料6のP26を参照いただきたい。

(高梨部会長)

テーマのイメージとしては、市民館で実施してきた事業を館の外に出てやっ払いこうということか。

(篠原係長)

館内で実施する事業がメインになるが、一部外に出て実施していく中で、どういったテーマをどういった場所で行っていくのが効果的なのか探っていく。

昨年度の第1回専門部会でテーマの洗い出しをしていただく中で、複数の委員から、市民館にこない方、来られない方もいるという意見があったことから、「外に出向いていく」という方向性が今期のテーマとして見えてきたところである。

(高梨部会長)

資料8の調査・研究報告書のタイトルや目次の内容について意見はあるか。

(高梨部会長)

テーマが広いので、タイトルに副題を付けて絞ってもよいと思う。

(篠原係長)

例えば「生田地区をモデルとして」といったイメージか。

(高梨部会長)

「モデル地区での実践を通して」などでもよいと思う。

(三品委員)

タイトルについて、どういう形で社会教育を振興していくかという視点がないので少し違和感がある。

(篠原係長)

市民館が多摩区内の全域の方々を対象にできるような社会教育を改めて目指す、といった趣旨である。今まではやり切れていなかったところがある。

(三品委員)

全員が参加しやすいような形で社会教育を振興していくということか。

(篠原係長)

アクセスが悪い方でも、本来であれば同じようなサービスを受けられなくてはならないが、その点が足りていなかったという反省も踏まえて、改めてアウトリーチをしていきたい。そのためにどうしたらよいかということで、まずは生田地区において、地区の課題である高血圧対策に資することを高齢者セミナーとして取り組んでいく。すべての地区に対してアウトリーチをしていくには相当な労力が必要となるので、まずは生田地区をモデルとしていくことを昨年度専門部会で決めていただいた。これを一つの事例として、出てくる課題なども踏まえながら他の地区にも展開していきたい。

地域みまもり支援センターとの意見交換を通じて、地区ごとに異なる課題があることが分かってきた。例えば稲田地区では子育て支援の強化といった意見も出たが、地域に出ていくことで見えていく課題もある。

(三品委員)

アクセス面の違いなども含め、区域に適した社会教育の振興、といったことか。そうであれば報告書のタイトルは少し見直した方がよいのではないか。

(篠原係長)

今回の専門部会で、この案も含め、御意見いただいた内容も踏まえた案もお示しするようにしたい。複数の案で議論をしていただく方向で如何か。

(山本委員)

この報告書は市民に向けたものなのか。

(篠原係長)

市民のほか、我々市民館に向けたものという面もある。多摩市民館がどうあるべきかについて、委員の総意としてまとめていただくものである。

(柏原館長)

報告書を読むのが誰かという点では、市のホームページにも掲載し、専門部会の活動を市民に知っていただくということもある。社会教育委員会議にも報告する。

(安陪委員)

報告書のタイトルの一例として、「多摩区区域に適した社会教育の振興」とするのはどうか。生田地区でモデル実施し、他の地区でも実施していくのであれば大きく括っておくのがよい。現案も「区域全域をフィールドとした」と大きく括ってはいるが、区域とはどこかという話にもなる。多摩区内の各地区の特性に応じて進められればよい。

(篠原係長)

先ほどの三品委員の意見をまとめていただいたと思う。安陪委員からいただいた御意見の方向でよければ事務局で整理し、副題も含めタイトルを検討し、お示ししたい。

(小園委員)

最初のタイトルを見てよいと思った。視野を広げて地区全体を見た上でターゲットを絞っていったというニュアンスが含まれていると感じた。今回は生田地区をモデルとするので副題として付け加える形でよいかと思う。

(高梨部会長)

いろいろな御意見が出たので事務局で取りまとめ、次回決定できればと思う。

## 9 今年度の日程について

資料10に基づき星野から説明。次回専門部会の日程を9月26日(火)10時~に決定した。

なお、可能であれば会議の冒頭、同時間帯に開催される「子育てひろば」を見学することとし、事務局で調整することとした。

また、市民自主企画事業提案会も含めて開催する第4回の専門部会を2月18日(日)午後に決定した。

## 10 閉会